

2026年2月25日

報道関係 各位

住友不動産商業マネジメント株式会社

**東日本大震災から15年、約1,500人が一斉避難
「東京ガーデンシアター避難訓練コンサート」開催
もしもの備えを自分ごととして
乳児・幼児から車椅子利用者まで、多様な来場者と取り組む防災活動**

住友不動産商業マネジメント株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:山本直人)は、2026年2月12日(木)、運営するイベントホール「東京ガーデンシアター」にて、防災啓発を目的とした「避難訓練コンサート」を実施いたしました。

東日本大震災から15年を迎え、震災の記憶を次世代へ継承するとともに、防災を「自分ごと」として捉える機会を創出すべく本イベントを企画いたしました。当日は乳児や幼稚園児から70代まで幅広い層の方々にご参加いただき、来場者数は約1,500名となりました。

今回の訓練は、東京消防庁音楽隊およびカラーガーズ隊による華やかな演奏と演技の最中に、地震発生による火災を想定した避難行動を組み込む形式で実施いたしました。演奏の中断から避難、そして演奏の再開までを一連のプログラムとして構成し、エンターテインメント性と防災意識の向上を両立させています。参加者からは「コンサートという非日常時に災害が起こるとどうなるか考えるきっかけとなった」との声が寄せられるなど、従来の一般的な避難訓練以上に防災を「自分ごと」として捉えていただけた体験型避難訓練の取り組みとなりました。

賑わい著しい東京湾岸エリアに立地し、年間約240公演を行う「東京ガーデンシアター」では、施設としての公共性を意識し、来場者と従業員の防災意識・対応力を高める避難訓練を継続的に実施することで、今後も安全・安心な環境づくりに取り組んでまいります。



「東京消防庁音楽隊」によるコンサートと観客



的確な避難行動ができるよう、大声で誘導するスタッフ



煙を用いて火災を再現 ※人体に無害



幼児が口を覆って避難行動



コンサート終了後のAED体験コーナーの様子

<本件に関する報道関係者お問い合わせ先>

住友不動産株式会社 広報部 03-3346-1042 koho@sumitomo-rd.co.jp

【実施概要】

- イベント名： 東京ガーデンシアター避難訓練コンサート
 - 開催日時： 2026年2月12日(木) 開演 13:30 / 終演 15:00
 - 会場： 東京ガーデンシアター(東京都江東区有明2-1-6)
 - 主催： 住友不動産商業マネジメント
 - 協力： 東京消防庁、深川消防署
 - 出演： 東京消防庁音楽隊、カラーガーズ隊
 - 参加費： 無料
 - 参加人数： 約1,500名 ※WEB申込数と座席数でカウント
- ①事前応募(Web)で申込のあったお客様 ※代表者が予約、同行者年代は自由記載
代表者年代： 30代 37%、40代 23%、50代 18%、以降、60代等が続く
代表者居住地： 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県の順
 - ②周辺幼稚園児、周辺企業・団体
 - ③イベント開催関係者(イベンター、プロモーター、技術関連)
 - ④消防・防災関係者
- 内容： 訓練の説明(約5分) ⇒ 演奏会(約25分) ⇒ 避難訓練(約20分) ⇒ 移動・休憩(約10分)
⇒ 演奏会(約30分) ⇒ 終演 ⇒ 防災・救急体験会

【避難訓練コンサートの様子】



入場するお客様はベビーカーからシニアまで幅広く



誰もが安心して避難できるよう、分かりやすく声掛け



今回演奏の「東京消防庁音楽隊」



華やかな演技の「カラーガーズ隊」

東京ガーデンシアター／東京都江東区



東京ガーデンシアター外観

最大約8,000人を収容できる、2020年に開業した劇場型イベントホール。先進の舞台機構、上質な音響、そして都内有数の広さを誇る大空間を備え、コンサートや各種ショーイベントはもちろん、国際会議、セミナー、アワード受賞式、展示会など、あらゆる催事に対応可能です。

▼東京ガーデンシアター公式ホームページ

https://www.shopping-sumitomo-rd.com/tokyo_garden_theater/

<参考>

1.17や3.11の教訓から「自助」の意識が向上し、様々な訓練形式が誕生。 近年は、本避難訓練コンサートのような参加型避難訓練が増加

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、避難訓練のあり方は大きく変容しました。ITを活用した非接触・非対面訓練の一般化が進んだほか、阪神・淡路大震災から東日本大震災、そして能登半島地震に至る数々の教訓を経て、訓練の主眼は従来の「一律の集団行動」から、「個々の環境に応じた実践的な備え」へと変化しております。特に近年では、義務感による参加に留まらず、参加者が自発的に申し込むような「体験の楽しさ」を取り入れた手法が注目を集めています。

当社グループが実施した「IT活用型訓練」や、本コンサートのような「イベント体験型訓練」の事例をご紹介します。

■多種多様な施設を所有・管理する当社グループの防災訓練

～施設の特性を生かした、様々な訓練を開催～ ※当社独自分類

① IT・デジタル活用型 → 技術で進化、働き方や場所に応じた訓練

「場所を選ばない分散型訓練」や、VR・ARを活用した「現場再現没入型訓練」などIT技術により選択肢が拡大。多様な働き方や環境に合わせた訓練が可能に。



渋谷オフィスビルでリモート防火・防災訓練
2021年9月1日発表

在宅勤務者も参加可能なリモート形式の防火・防災訓練。本訓練では、従来の防火防災訓練は少人数にてオフィスビルで実施するだけでなく、在宅勤務者にも災害時の行動が学べる研修動画も同時配信するなど、職場にいなくても避難行動を学べるリモート形式の訓練を開催しました。

リモート形式での避難訓練
オフィスビルにいなくても訓練を学べる

②環境特化型 → 建物や立地等、特定の環境に特化した訓練

警察と連携し不審者対応、ホテル、EV閉じ込めなど、特定の建物や状況に応じた判断・救助スキルを訓練。



非常階段から避難するお客様と愛犬

都心ペット同伴ホテルにて、愛犬と一緒に客室から避難
2024年2月9日発表

愛犬のためのホテルだからこそ可能な、客室やレストランを利用した実践的な避難訓練を実施しました。当日は飼い主様20名（13頭）が参加し、災害時の安全な同行避難や注意点の確認に加え、自宅避難時に必要となる備蓄品について学びました。



都心オフィスビルを活用した帰宅困難者受け入れ訓練
2025年12月12日発表

新宿駅周辺防災対策協議会と地域の事業者と協働し、帰宅困難者一時滞在施設運営訓練を実施。オフィスワーカーだけではなく、車椅子や妊婦、外国籍役など新宿ならではの多様な来街者を想定した訓練を実施しました。

帰宅困難の車椅子の方を一時滞在場所に誘導

③イベント・体験型

→ 自ら申し込んで参加するエンタメ融合の訓練

本取り組みのように、自ら応募して楽しみながら知識を習得することができる訓練。



コンサートを中断し、避難をする参加者